普及センターだより

土浦

令和元年７月２２日　　No. ４５
茨城県県南農林事務所 経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）
土浦合同庁舎第２分庁舎３Ｆ
土浦市真鍋５－１７－２６
土浦農業改良普及事業推進協議会
電話　０２９－８２２－７２４２
FAX　０２９－８２２－７３７０
URL　http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nannourin/keiei/tsuchiura/index.html

現地研修の様子「ナシ１本主枝の直線的栽培」

県南地区梨協議会研修会の開催

六月一一日（火）に、ＪＡ水郷つくば霞ヶ浦支店および現地圃場で、県南地区梨協議会研修会が開催されました。

県南地区梨協議会は、平成三〇年に茨城県梨組合連合会の県南地区の会員を構成員に設立されました。この研修会は、各部会の交流促進や連携強化のために開催され、今年で二回目になります。

今回は、県育成ナシ新品種「恵水」をテーマに、生産技術及び販売状況に関する情報共有・意見交換を行ました。前半は、かすみがうら市のＪＡ水郷つくば霞ヶ浦梨部会員の現地圃場で、県の栽培マニュアルに基づく適正着果管理や、新改植による生産性の維持について現地研修を行いました。後半の情報交換では、「恵水」の県統一出荷に向け、協議会長から、今年度の出荷方針の説明が行われました。また各部会より、ナシ全般の生育状況および出荷予定についても活発な情報交換が行われ、ＪＡの枠を超えて情報を共有する有意義な機会となりました。

当部門では、儲かる農業の実現に向けこうした組織活動を支援すると共に、新品種「恵水」を茨城県産ナシのけん引役となる商品に育てるため、今後も生産技術対策等の支援を続けていきます。

営農 トピックス

イネ縞葉枯病が増えています！

県南・県西地域を中心に、イネ縞葉枯病の発生が多くなっています。防除対策をしっかりと行い、イネ縞葉枯病の被害の拡大を食い止める必要があります。

イネ縞葉枯病は、イネ縞葉枯ウイルスを持ったヒメトビウンカ（写真1）がイネを吸汁することにより感染するウイルス病です。ヒメトビウンカがイネ縞葉枯発病株を吸汁すると、ウイルスを獲得し、他のイネに感染させます。

イネ縞葉枯ウイルスに感染すると、葉に淡黄色の縦縞ができ、穂が出すくんだり（写真2）、出穂しても不稔になって減収します。

イネ縞葉枯ウイルスに感染してしまうと、治療する方法はありません。対策は、媒介虫であるヒメトビウンカを防除して感染の機会を減らすこととなります。

防除対策のポイントは、収穫後の耕起を行うことと育苗箱薬剤施用です。

今後の対策として、発病株から発生するひこばえをヒメトビウンカが吸汁すると、ウイルスを獲得してしまうので、収穫後は早めに水田を耕起し、ひこばえの発生を防止します。

写真1
ヒメトビウンカ

写真2
穂の出すくみ

来年の育苗時の対策としては、ヒメトビウンカを対象に、薬効が長期持続する育苗箱施薬剤で防除します。

営農 トピックス

レンコン黒皮症と防除対策について

レンコン黒皮症は、レンコンネモグリセンチュウ（以下、センチュウ）が表皮を加害することで発生します。皮点とは異なり、不規則に並ぶ黒褐色のへこみが特徴です。

『黒皮症の発生とその対策』

センチュウは、レンコンの細根や収穫後の残さ、土の中を主に住処としています。ほ場に生息するセンチュウが増加すると、被害が拡大する傾向があります。そのため、センチュウを〝入れない、出さない、増やさない〟対策が必要です。

『入れない、出さないために』

黒皮症の被害が無い種バスを用い、ほ場の外から泥等が流入しないように、畦畔をこまめに補修しましょう。

黒皮症の被害が見られるほ場で収穫した後は、農機具や作業着を十分に洗い乾かして下さい。

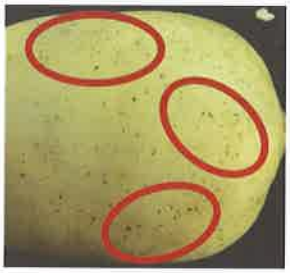
『増やさないために』

石灰窒素の施用により一定の防除効果が見込めます。特に、気温が高い時期の施用は高い効果が得られます。施用後は直ぐに代かきして下さい。

また、八～九月の早掘りや休作は、被害の軽減に繋がります。レンコンの他、ケイヌビエ等の雑草にもセンチュウは寄生するので、雑草防除を心掛けて下さい。

『定期的な診断と継続した取り組みを』

ほ場の条件や作業計画に合わせて、センチュウの発生状況を定期的に確認し、取り組める対策を継続することが大切です。センチュウの診断は普及センターで受け付けています。是非ご相談ください。



注意が必要な皮点と区別しにくい黒皮症の初期の症状（赤い丸枠内）

営農 トピックス

クリ害虫「クリシギゾウムシ」の生態と収穫時の対策について

『クリシギゾウムシの生態』

クリの重要害虫「クリシギゾウムシ」による被害は、九月中旬以降に収穫する品種で多く、登録薬剤の散布だけでは防除が難しい害虫です。

八月上旬から一〇月上旬（最盛期は九月上中旬）にかけて黒褐色の成虫が羽化して土中から出現し、クリの毬（いが）が裂開する前に果実に産卵します。雌成虫による産卵は九月一五日前後から多くなり、一果実に対する平均産卵数は二卵で、多いものでは八卵におよびます。産卵後、一〇日前後で幼虫が卵からふ化し、果肉の食害を始めます。その後、約二〇日で老熟し、鬼皮に丸い穴（二～三㎜前後）をあけて果実から脱出して、土中一〇～二〇㎝に土部屋をつくり越冬します。そして、越冬幼虫は七月下旬から九月中旬にかけて土部屋の中で蛹となり、約二週間後に羽化します。

クリシギゾウムシの幼虫は果実の外に虫ふんを全く出さず、食害された果実は、虫ふんの発酵とともに腐敗します。特有の腐敗臭があり、果実の鬼皮の一部が黒褐色に変色します。

『収穫時の対策』

クリを収穫する際、商品にな

らない果実（モモノゴマダラノメイガによる食害果や品質不良果など）からも、健全果とほぼ同程度の数のクリシギゾウムシ幼虫が脱出することが確認されました（平成二七年度園芸研究所成果）。従って、収穫対象外の果実を園内に放置することは、土中で越冬する幼虫の数を増やすことにつながってしまいます。収穫時には、商品にならない果実もしっかりと拾って園外に持ち出し、適切に処分することを心掛けましょう。

クリシギゾウムシ幼虫による食害の様子
（出典：茨城県園芸研究所）

営農トピックス

グラジオラス「常陸はつこい」の紹介

茨城県のグラジオラス生産量は、切り花生産が全国三位、球根生産では全国一位と、トップクラスの産地となっています。県ではオリジナル品種の育成を進めており「常陸はつこい」が種苗登録されましたので、ご紹介いたします。

『品種の特徴』

花色はサーモンピンク色で黄色のぼかしが入ります。大輪系品種であり、同時に六～七花が開花するためボリューム感があります。季咲き栽培（四月定植）における到花日数は、七六日程度と極早生です。促成栽培では五～六月に早期出荷可能です。

市場性評価では、「純粋なピンク色ではないため、色の表記に注意が必要であるが、早期出荷できるピンク系の品種」として評価されました。また、現地試験における生産者評価では、「市場の求める五月出荷が可能な極早生ピンク系の品種であり、切り花の品質はやや細身であるものの良好で、採花率も良く、葉が短いためトンネル栽培に適している」と評価されました。

『栽培ご希望の方』

グラジオラスを栽培してみたい方は、土浦地域農業改良普及センターまでお知らせください。

まちからむらから

土浦市

第二期、第三期土浦ブランドが認定されました！

土浦市では市の魅力を発信しブランド力向上を図るため、土浦市で生産される農林水産物及び加工品で、土浦の恵みとして人を結びつけ、まちの賑わいへとつなげていけるものを「土浦ブランド」として審査、認定を行っています。

第二期はJA水郷つくばの「グラジオラス」や、いきいきフレッシュ組合の「果樹アイス」など、第三期はJA水郷つくばの「梨」、吉田農園の「吉田農園のれんこん」、土浦市農業公社の「土浦小町みそ」などが認定され、第一～三期の合計認定数は三十二点となりました。認定された農産物・加工品はいずれも高く評価され、魅力発信や地域活性化、交流人口の増加が期待されています。五月二五、二六日には土浦イオンで認定品販売会も行われ好評を博しました。認定品の詳細については、土浦市役所HPをご覧ください。

かすみがうら市

市内で果樹農家を目指す農業研修生を募集しています！【第三者継承促進事業】

かすみがうら市では、近い将来、果樹園を営む意思のある満四〇歳未満の方を対象に、毎月五回以上かつ四〇時間以上の研修を一年以上、二年間を限度に市内果樹農家での農業研修（無料）希望者を募集しています（二名程度／年）。

また、市では研修生を受け入れる市内の果樹栽培を主業とする専業農家の方も募集しており、研修生を受け入れていただいた農家の方に、月額五万円の助成金を交付しています。

詳しくは、かすみがうら市農業再生協議会（農林水産課内、〇二九－八九七－一一一一）までお問い合わせください。

石岡市

新たに二組の農業研修生

JAやさとゆめファームと朝日里山ファームでは、今年それぞれ新たに一組ずつ計四名の研修生を迎え入れました。

二つの研修農場には、研修に必要なほ場（有機JAS認定ほ場）、農業機械や設備が揃っており実践的に農業を学ぶことができます。また栽培品目は、夏季にキュウリ、ピーマン、ナスなどの果菜類、秋冬季にニンジン、ダイコンなどの根菜類、コマツナなどの葉菜類で、その中から自分に合った品目を選択し作ることになります。

どちらの施設も研修生は二年間、先輩農家の指導を受けながら、夫婦で実践的な栽培研修を行います。今後、研修を通して経験を積み、新たに市内で独立し、地域農業の中心的担い手を目指します。

どうぞよろしくお願いします

今年度、新たに農業三士として茨城県知事の認定を受けた皆さんをご紹介します。

農業経営士

土浦市　柳澤　浩二 氏

（施設野菜）
栽培施設内の環境制御技術で品質の良いみつばを安定生産。地域の子育て世代を積極的に雇用。

かすみがうら市　矢口　仁也 氏

（果樹＋露地野菜）
梨と露地野菜の複合経営で後継者育成と耕作放棄地の再生に積極的に取り組む。

女性農業士

土浦市　吉田　悦子 氏

（露地野菜）
前職の経験を活かしレシピ提案や地元特産品のＰＲに取り組むと共に、子供達への食育活動に意欲的。

青年農業士

土浦市　市川　健二 氏

（露地野菜）
高品質なれんこん生産を目指し、生産組織の役員も務める。将来の地域を担う若手として期待される。

土浦市　荒井　弘 氏

（露地野菜）
若手組織に所属して積極的に地域交流や農産物のＰＲに取り組む。今後更なる活躍が期待される。

茨城県では、優れた経営感覚を持ち、地域農業の振興をすすめる農業者を農業経営士に、農業経営と農村生活の向上に意欲的に取り組む女性農業者を女性農業士に、また、将来の地域農業の担い手となる農業青年を青年農業士にそれぞれ認定させていただき、地域農業の振興・発展のため様々な場面でご活躍いただいています。農業三士とは農業経営士・女性農業士・青年農業士の総称です。

いばらき農業アカデミーのご案内

茨城県では農業の技術向上や経営発展に意欲のある方、農業を始めて間もない方、将来就農を目指す方など幅広い方を対象に、総合的な学びの場を提供する「いばらき農業アカデミー」を開設しています。講座内容などの詳しい情報はホームページなどをご参照ください。

ホームページ　Facebook

問い合わせ先

いばらき農業アカデミー事務局
TEL 0299-45-8321　FAX 0299-45-8350

令和二年度茨城県立農業大学校 入学生募集のお知らせ

県立農業大学校では、高校等の卒業者（若しくは見込者）、農業大学校卒業者、短期大学等の卒業者（若しくは見込者）を対象に学生を募集しております。

区　分	学科名	募集人員
学　科	農学科	４０名
	畜産学科	１０名
	園芸学科	３０名
研　究　科		１０名

問い合わせ先

茨城県立農業大学校
TEL 029-292-0010　FAX 029-292-0903